



諏訪小だより



富士見市立諏訪小学校

令和7年3月24日学校だより NO. 12

校長 石井 勝博



1年間、ありがとうございました

学校の桜の蕾も大きく膨らみ始めた今日、「第50回卒業式」が行われました。今年度は114名の児童が諏訪小学校を巣立っていきました。そして、26日の修了式をもって令和6年度が終了いたします。

昨年度からコロナ前の教育活動に戻しはじめ、今年度は、通常の教育活動に完全に戻しました。全校集会では、体育館に全児童が集まり、様々な集会を行いました。給食もグループを作りみんなで仲良く食べ、話し合う活動もたくさん行いました。子供たちが笑顔で友達と関わりながら学校生活を送る様子はいずれもうれしいものです。

この1年間、本校の教育活動に対する深いご理解とご支援・ご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

昨年度に引き続き、「なるほど！ いっぱい 笑顔！ いっぱい 元気！ いっぱい」を学校経営方針として、教育を推進してまいりました。また、「凡事徹底」当たり前のことが当たり前に見える児童を育てたいと思い努力してまいりました。学校評価でご意見等をいただいたことをしっかり受け止めるとともに、成果と課題を洗い出し、さらによりよい諏訪小学校を目指し精進してまいりたいと思います。1年間、本当にありがとうございました。

<卒業証書授与式での「校長の言葉」の一部>

校長先生からは最後に「学ぶ姿勢を持ち続ける」ことについて伝えます。

校長先生は先生になってから10年が過ぎた頃、算数を教えることはよくできていると自分で思っていました。でも、もう少し勉強して確かめようと思い、算数教育の先駆者である杉山吉茂先生のもと、1年間大学で勉強することにしました。すると、自分の勉強はまだ足りず、子供たちに本当の算数の楽しさを教えていないことに気づかされました。自分で頑張っていることでも自分で判断してよくできていると思わず、算数なら算数のプロに評価してもらうことが大切なことを学びました。

また、校長先生は30年以上、サーフィンをやっています。自分では中級者以上だろうと思っていました。ところが、今年、サーフィンの先駆者である佐藤さんと出会いました。とっても上手だったので弟子にしてほしいと声を掛けたのです。そして、たくさんのことを教えてもらっています。教えてもらう中で、「自分では本当のことは分かっていなかったんだ。」と気づかされました。

やはり、自分で頑張っていることでも自分で判断してよくできていると思わず、サーフィンならサーフィンのプロに評価してもらうことが大切なことを改めて学びました。

みなさんもこれからいろいろなことに挑戦していくと思います。挑戦していく中で自分でできたことに満足してしまうことがあると思います。そこで、立ち止まり、自分自身を振り返り、本当に満足してよいのかを考えてみてほしいのです。

人との出会いを大切に、出会ったすべての人から学ぶ姿勢を持ち、いつまでも、ずっと学び続けてください。学び続けることが夢の実現に向けての近道だと思います。

防犯・防災についてのお願い

防犯、防災の点から正門を閉鎖させていただきます。社会体育等で利用する際は、確実に閉めていただきますようお願いいたします。長期休業日中に学校へお越しいただく方につきましては、職員玄関（イムス富士見側）からお入りください。ご理解の程よろしくお願いたします。また、春休み中に未成年者の飲酒、危険行為等気付いたことがありましたら、下記へ連絡をお願いします。

富士見交番 251-5542 東入間警察署 269-0110